

90年代における九州山村地域の変貌

九州大学農学部 藤岡 義生・村上 拓彦

1. はじめに

70年代以降における山間部からの人口流出が90年代に入ってようやく沈静化しつつあるが、山間部では新たな問題に直面しつつある。本稿では、主に地図情報から得られるデータを元に九州全体の中での山村地域を相対視し、どのような指標が山村地域の立場を特徴的に表すのかを検討する。

今回用いた指標は人口の社会増減数と製造業・建設業就業者数の伸び率(95年度/90年度比)で、これら3項目について検討した。地図情報は国勢調査と住民基礎台帳のデータを元に指標を作成し、それを市町村界ごとに地図上に数値に応じて色分けして表示させるシステムをつくり、それをを用いて作成した。

2. 人口動態

81年において人口の自然増は山間部でも認められたが、人口の社会減は低成長期に入っても山間部では増大しており、バブル期の90年にかけては最も山間部からの流出が目についた。つまり、山村地域で農業就業者世帯の比率が高かった70年代までは人口の自然増となる要因が存在したが、80年代後半にかけて山村地域における人口の社会減が世帯の減少につながり、残された世帯の高齢者・単身者比率も高まり、出生率の低下=自然減となったことが分かる。90年には517市町村のうち自然減となった市町村数は230だったが、94年になると312市町村にも増加している。特に山間部において人口に対する自然減少の割合が激しいことが分かる(図-1)。

3. 90年代における就業構造の変化

次に90年代の産業別就業状況を全国平均と比較して考察すると(表-1, 表-2), 1970年において九州は農林就業者数の構成比が全国平均よりも8.4ポイント高くなっている。その後の農業就業者数は70年を100とすると90年には43, 95年には37にまで減少し、全国とはほぼ同様の傾向が見られる。製造業の70年から90年の伸び率は全国平均が107.0%であるのに対し、九州は

116.9%と10ポイント上回っているが、90年から95年にかけては減少率が93%を挟んでほぼ同じように落ち込んでいる。この様に製造業は主に80年代は九州でその労働市場を拡大していき、第1次産業就業者の落ち込みの受け皿になっていたが、90年代に入ってから減少に転じている。一方、建設業やサービス業への就業者の構成比は全国と同様に拡大している。

図-2は製造業就業者数の対90年比を地図上に落としたものだが、九州の脊梁地域で減少率が高いのが確認できる。この様な山間部において建設業就業者数の対90年比は人口規模に関係なく、大部分が10%以上の伸びを示しており、特に宮崎県、鹿児島県の山間部、熊本県球磨地方での伸びが顕著である(図-3)

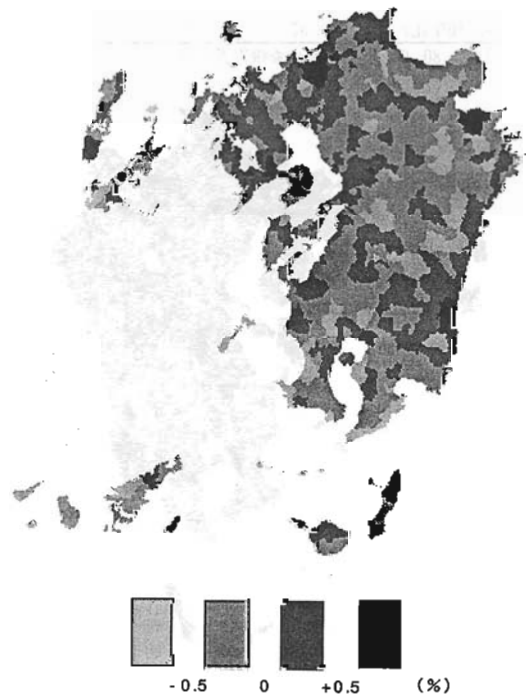


図-1 総人口に占める自然増減数の割合(1994年)

4. 考 察

以上様々な指標を地図情報として見てきたが、九州山村地域における90年代の人口および就業構造の特徴は次のように言うことができる。(1)人口の自然減市町村の拡大と福岡県一極集中、(2)農林業就業者の減少、(3)製造業就業者の増加から減少への転換、(4)建設業およびサービス業就業者の増加、である。特に製造業就業者数の減少は、生産拠点を海外へ、という産業空洞化の影響が大きいものと思われる。しかし、今回の報告

は、国勢調査と住民基礎台帳のデータにしか基づいておらず、綿密な検討を加えるためには農林業センサスや工業統計といったもう一段階踏み込んだマス・データ、大規模な公共投資が行われている位置や交通網、企業の進出先など、どこで何が行われているのかという場の情報と組み合わせて使うことが必要になってくる。この様に扱う情報量が膨大になってくれば地図情報としてデータのアウトプットを捉えることの必要性は高まってくると思われる。

表-1 就業構造の比較

	九州					全国				
	農業	建設業	製造業	サービス業	その他	農業	建設業	製造業	サービス業	その他
1970	26.3	7.7	14.9	15.8	35.3	17.9	7.5	26.2	14.6	33.8
1990	10.5	10.4	16.2	23.6	39.8	6.4	9.5	23.7	22.5	38.4
1995	8.7	11.4	14.7	26.2	39.2	5.3	10.3	21.1	24.8	37.9

資料：1970、80、90、95年国勢調査報告書より

表-2 就業構造の比較（伸び率）

	農業		建設業		製造業		サービス業	
	九州	全国	九州	全国	九州	全国	九州	全国
	90/70年比	43	42	145	149	117	107	160
95/90年比	87	87	115	113	95	93	116	115
(95/70年比)	(37)	(36)	(166)	(168)	(110)	(99)	(185)	(208)

資料：1970、80、90、95年国勢調査報告書より



図-2 製造業就業者数の伸び率（95年度/90年度比）



図-3 建設業就業者数の伸び率（95年度/90年度比）